

# ひがりの都



## 一陽来復を願って

管理局長 田村 賢一



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスとの闘いに終始した一年でした。当院でも、外来リハの休止、感染拡大地域からの入院制限、面会の禁止、外来と入院の動線分離、検査体制の充実など、緊張感をもって感染予防対策に取り組んでまいりました。患者さんやご家族の皆様には何かとご不便をお掛けしますが、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

「食べること」は、自立した豊かな生活を送るための人として最も基本となる機能ですが、加齢や様々な疾患により口腔や摂食嚥下の機能が衰えると、食欲減退や低栄養、誤嚥性肺炎などのリスクにつながります。

当院では、脳血管疾患やパーキンソン病等の入院患者さんを対象に、摂食嚥下機能の回復を図るため、専門的な検査による評価、嚥下リハビリテーションなどを行ってきたところですが、11月に「摂食嚥下支援センター」を開設し、在宅や施設で、食べることでお悩みの方まで治療対象を拡げることといたしました。まずは専門外来を受診いただき、必要に応じて入院のうえ、検査やリハビリ、安全な食べ方のアドバイスなどを受けていただきます。地域医療機関の皆様におかれましては、お困りの方がいらっしゃいましたら、お気軽にご相談くださいますようお願い申し上げます。

さて、2021年丑年は、いったいどんな年になるのでしょうか？

もともと十二支は植物の成長過程を表しており、丑は十二支の二番目で、子年に蒔いた種が芽を出して生育する時期とされています。新型コロナウイルスが収束するまで、まだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、「牛の歩みも千里」と言われるように先を急がず地道に黙々と働き当院の新たな発展へと繋げる年にしていきたいと職員一同決意を新たにしております。

皆様方にとりましても、新型コロナに負けない、回復と飛躍の一年になりますようお祈り申し上げます。

## 普段着の私

診療部長 多々野 誠

天気の良い週末は家島諸島周辺で釣りをしています。遊漁船で島々を回ります。1年中美味しい魚を釣ることができます。冬から春はタイ、メバル、ガシラ、アコウ、夏はキス、アジ、秋はイカ、タチウオ、ブリなどの青物が主な対象魚です。家島諸島には海上釣堀があり、1年中高級魚を釣ることができます。冬から春はクロソイ、サクラマスなどのサーモン類、夏から秋はタイ、シマアジ、青物、クエ、マグロなどを釣ることができます。対象魚ごとに、竿の長さ、硬さ、リールの種類、ハリスの長さ、太さ、針の大きさ、形状など最適な組み合わせを考えます。また、餌の種類や動

かし方、狙う場所や深さなどを変え、その日の釣れるパターンを見出します。仮説と検証の繰り返しによって少しずつ釣果が上がり、興味が尽きる事はありません。さて、活き締めして持ち帰った魚は全て刺身で食べることができますが、同じ魚種でも寝かせる日数によって食味が変わります。また、毎回同じ料理では飽きるの、時々新作に挑戦します。そのため釣行を重ねるにつれ、魚調理のレパートリーが増えていきます。遠くに霞んで見える山々を見ながら、半日海上で糸を垂れる余暇の過ごし方は如何でしょうか。



## 部署紹介 言語聴覚療法科

みなさん、こんにちは！

言語聴覚療法ってご存じですか？

言語聴覚療法は、コミュニケーションすることや食べることに困難が生じた方々へ行われるリハビリの事です。その専門家が私たち言語聴覚士（ST）です。私たちが主に対象とする症状には「失語症」、「構音障害」、「摂食嚥下障害」等があります。その方の困っていることを検査・評価し一緒に解決できるよう訓練を進めていきます。

今回はその中でも、他の病院ではあまり見かけることがない機械を用いた検査や、当院ならではの特徴的な訓練の一部をご紹介します。

LSVT LOUD®



主にパーキンソン病の患者様へ発声訓練方法を実施しています

失語症専門外来



失語症の外来患者様の訓練を実施しています

嚥下造影検査 (VF)



X線を使って外から見えない飲み込みの様子を観察します

バイタルスティム



低周波電気を流して喉の筋力を鍛えます

ソナスピーチ



声を録音して声質や音量を分析し、評価や訓練に用います

色々な症状に合わせて評価や分析をして、一人一人に合わせた訓練を行っています

※LSVT LOUD®コースや、失語症専門外来の詳細については、当院HPをご参照ください。

### 実は…

ST科には、当院のマスコットキャラクター「にしかちゃん」の生みの親が…！季節によって変わるにしかちゃんのイラストもST室の見どころのひとつです。

ほかにも個性豊かな12名のスタッフが在籍しており、患者様の機能回復に向けてリハビリを行っています。よりよいサービスをご提供できるよう精いっぱいご支援いたします。どうぞお気軽にお声がけください。



にしかちゃんの生みの親…！

“おんせん”と“うまいもん”でおもてなし  
冬のひとときを保養荘で

あじさいプラン (税込)  
平日1泊2食付 1室2名様利用 6,800円~  
大人お一人様(65歳以上の方)

その他、いろいろなプランがございます。  
詳しくはHPをご覧ください！

浜坂温泉保養荘

☎(0796)82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775  
http://www.hamasaka-ni.com/

宿泊料は時期により異なります



Play Sport

ふれあいスポーツ交流館

TEL 0791-58-1313 FAX 0791-58-1323

〒679-5165 たつの市新宮町光都1-7-1

# 摂食嚥下支援センター開設



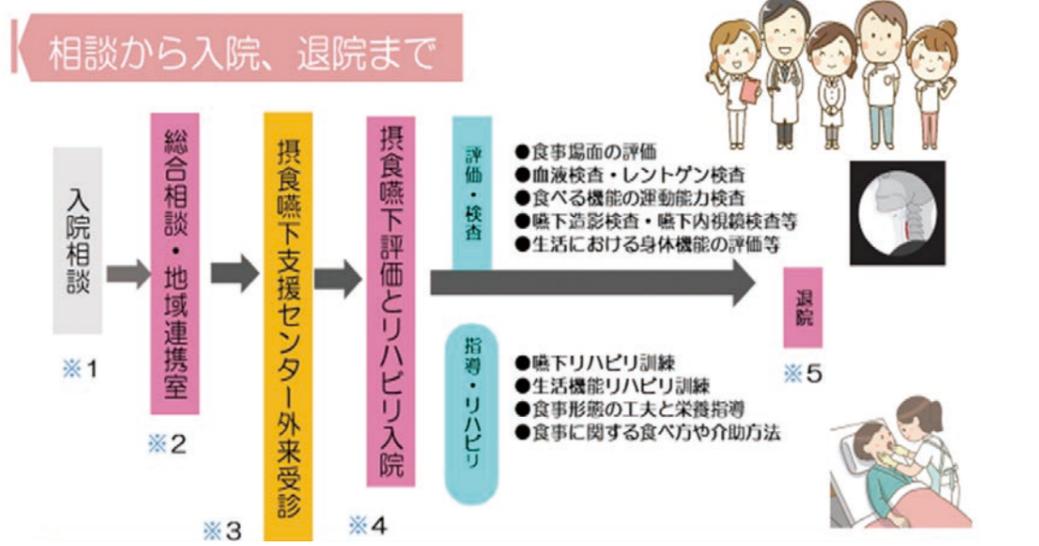
現在、西播磨・中播磨圏域においては、地域医療における回復期・生活期の摂食嚥下機能を適切に評価し、必要な訓練や指導を行い、地域に還元できるようなシステムは確立できていません。リハビリ専門病院として、当院がこれまで多職種によるチーム医療により取り組んできた、脳血管障害患者・パーキンソン病や地域高齢者の摂食嚥下障害機能向上にかかる治療実績等を生かし、摂食嚥下障害を早期に発見し、誤嚥性肺炎予防及び、オーラルフレイルなど、安全に食べるための専門的な評価・指導を目的として、2020年11月より、『**摂食嚥下支援センター**』を開設いたしました。

回復期のみならず、在宅・施設入所（生活期）における摂食嚥下障害のある患者さんの短期入院による評価と生活指導を行い、今後の栄養管理や誤嚥予防に役立てるよう支援します。

2週間程度の入院により専門的な検査（嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査）や栄養評価と、それに基づいた嚥下リハビリテーションや姿勢の調整、食事内容、安全な食べ方のアドバイス等をリハビリチームにより行います。

かかりつけ医（歯科医）の先生から、紹介状・採血等の検査データを当院 総合相談・地域連携室へFAXで送信してください。また、退院時には、かかりつけ医宛に情報提供させていただきます。

※ご相談がある場合は、総合相談・地域連携室 初診受付担当にてお問い合わせいたします。



- ※1 かかりつけ医（歯科医）の紹介状・血液等の検査データを当院の総合相談・地域連携室宛にFAXしてください。
- ※2 接触・嚥下支援センター外来への受診日について当院の医事課より、かかりつけ医（歯科医）へ受診予約表をFAX致します。患者さまの病状により入院の適応がない場合には、入院リハビリをお断りする場合があります。
- ※3 **摂食嚥下専門外来は、原則第2・4金曜日（午前）に受診して頂きます。**
- ※4 摂食・嚥下リハビリ入院は、2週間程度です（入院期間には個人差があります）
- ※5 退院時には、かかりつけ医宛に情報提供させていただきます。退院後には、かかりつけ医でフォローをお願いします。

# 『コミュニケーション機器について』

研修交流センター 北川 博巳

日常生活では私たちはどのようにコミュニケーションを取っているでしょうか？一般的にコミュニケーションと言えば、言葉や表情、身振りなどで人と人がお互いにやりとりをすることが多いと思います。また、近頃は携帯電話・スマートホンの普及で電話やメールで連絡が取りやすい環境になり、遠方の人とのコミュニケーションも取りやすくなったのではないのでしょうか。さらに、SNSで自分の思いを世界中に発信したり、インターネットを利用してオンラインのリモート・ミーティングを行ったりなど、ICTを活用して人と社会とのやりとりを可能にする広い意味でのコミュニケーションも発展しています。

コミュニケーションをとるためには、見る・聴く・話す・読む・書くなどのスキルが必要になりますが（最近では機器の操作も入るのかもしれませんが）、**これらの機能を補完する福祉用具は沢山あります。**たとえば、視覚障害の方たちには**点字、拡大読書器、音声出力商品、音声読み上げソフト**、聴覚障害の方たちには**補聴器、筆談用具、フラッシュで知らせるライト、字幕放送**などがあります。肢体不自由の方たちには**会話補助装置や意思伝達装置、それに関する多種多様なスイッチ**などが揃っています。さらに、認知症や知的・発達障害のある方たち向けの**コミュニケーション支援ボードやアラーム**などで予定を覚えてくれる道具などもあります。福祉用具展示ホール（コムプラザ）におきましても、**会話補助装置、筆談ボード、視線入力装置、コミュニケーションロボット**などいくつか機器を展示していますので、見て、触れて、試してみることができます。



コミュニケーションロボットや支援装置

さて、最近ではIoT家電やスマートスピーカーなど、福祉用具ではない一般向けで便利な機器が出てきました。特にスマートスピーカーはインターネットに接続して、家電用の専用リモコンと繋げてスマホで設定をすれば声で命令するだけで家電の設定が可能になります。しかも安価で手に入るようになりました。また、タブレットやスマホも基本設定で障害者対応があり、話しかけることで音声認識をして字幕のテキストがでるようなアプリをはじめコミュニケーションを支援してくれるアプリも多くあります。これからはこれらの活用も賢く考えてゆく時代になりそうです。